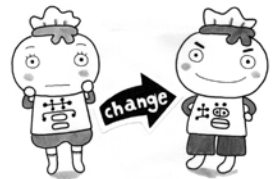




2017年4月5日

本科・日本語科合同入学式

A 先生の新語コーナー



yínggǎizēng “营改增”

営業税から増徴税（付加価値税）への切り替え。営業税と増徴税が併存する二元的な課税を増徴税に一本化する税制改革を指す。この改革は2012年1月、上海市で試験的に始められ、その後、実施地域と対象業種が徐々に拡大され、昨年5月に不動産業、金融業などの4大業種が組み込まれたことで、増徴税への一本化を実現した。企業の税負担軽減が改革の主な目的で、昨年の1～10月の「营改增」による減税総規模は37177億元となった。

(A)

2017年4月より就任しました新しい学院長をご紹介します。

新学院長自己紹介

学院長 片寄浩紀

中国語との出会いと就職

私は1946年（日本敗戦の翌年）生まれで、1964年の東京オリンピックの年に上京し、その秋から倉石中国語講習会（日中学院の前身）の別科に通い、3年間中国語を勉強しました。今から53年も前のことです。

「中国と直接付き合い、中国語を使える仕事」を探し、1968年に日本国際貿易促進協会に就職しました。それから昨年3月まで48年間、協会で日中経済貿易の促進事業に従事してきました。2度北京事務所に駐在しました。日常的には中国代表団の受け入れや、日本からの訪中団派遣の業務を行ってきました。毎年春と秋に広州で開催される輸出商品交易会の協力業務、中国の主要都市で開催する日本製品の展覧会事業にも関与しました。

初訪中で黄坤益先生を知る

長い中国との付き合いの中で、深く印象に残っているのはやはり初めて訪中した1970年4月の広州交易会です。中国初の実験用人口衛星「東方紅」の打ち上げ成功で、街中が銅鑼や太鼓の祝賀デモで沸き立っていました。私が担当した日中技術交流会の中国側責任者黄坤益先生は、就職3年目で、中国語も下手な私に対して対等な目線で、謙虚な態度で対応してくれました。この出会いが「生涯中国と付き合いおう」と決心する契機となりました。

国交正常化後の新局面

国交正常化（1972年）により、あれほど遠かった北京への路は羽田からの一足飛びに短縮されました。「工業は日本に学べ」とばかりに來日相次ぐ中国の技術視察団の受け入れ随行業務に忙殺され、結婚した1973年には200日以上家を留守にしました。そのお陰で私の中国語能力は格段に高まりました。

また日本で年越しをする中国人を元旦に自宅へ招待する「おもてなし」を始めました。ある年、経済日報東京支局長K氏夫妻を招いたところ、家内の中国人観が変わりました。食事が終わったあとK氏夫人が家内の皿洗いを手伝ってくれたのです。お返しの招待を受け、K氏夫妻のマンションを訪問したところ、夫人は自分の郷土料理を作るため、わざわざ横浜中華街まで材料を買いに行ったのです。夫人の誠実な行動は家内を深く感動させました。

改革・開放がもたらしたもの

1978年、中国は経済路線を大きく変えました。自力更生・計画経済から対外開放・市場経済へと大きく舵を切ったのです。この年、来日した中国機械工業代表団は日立製作所の社長に対して「中外合弁」の提案をしました。通訳として同席した私は耳を疑いました。それまで中国はプラント輸入に力を入れていましたが、外資導入に切り替えたのです。

1985年中国は初の多国計測器展（MICONEX）を上海で開催し、日本企業も参加しました。香港が全体の窓口で、英語での業務連絡が必要となり、私は急遽一年間英語の学校に通いました。日中関係が「二国間関係」から「多国関係の中での二国関係」へと広がりを持つようになる象徴的なイベントになりました。

進む市場経済化と2度目の駐在

90年代に入ると、中国の市場経済化が進展し、日中経済は全面的に発展しました。

1996年5月に私は20年ぶり2度目の北京駐在をしましたが、北京はすっかり近代化した都市に生まれ変わっておりました。

この時期、中国は「西部大開発」を打ち出し、外資を内陸部にも積極的に誘致しました。協会が派遣した内モンゴル投資環境調査団で知り合った内モンゴル大学日本語科3年生のKさんが98年の春節に赤峰市の実家に招待してくれました。私にとって初めてのホームステイであり、炕に寝たのも初体験でした。20年後の2015年12月、Kさんが東京の我が家を訪問してくれたので、やっとそのお返しができました。

新疆への視察旅行で親しくなった新疆国際貿易促進委員会のUさんから息子さんの日本留学への協力を頼まれ、私は彼の日中学院への入学手続きと身元引受をしました。彼は日中学院卒業後日本の大学へ進み、今は新疆政府で働いています。



グローバル経済の中で

21世紀の幕開けと共に中国はWTOに加盟（2001年12月）し、市場経済国家群の仲間入りを果たしました。中国の各省・市が日本で相次いで投資誘致説明会を開き、協会はその受け入れ業務を行いました。広州市代表団のYさんは「東京の山が見たい、川が見たい、農村が見たい」と言いました。こんな要求に驚いた私は一緒に奥多摩の山々を見、多摩川を散策し、近郊農村を見学し、自宅に招待しました。Yさんの努力を通じて協会は広州市と業務協力協定を結ぶことができました。

日中関係発展させるには、気持ちを通じる中国人とより深く付き合うことが大切だと思います。その場合、相手の長所を謙虚に学び、尊敬する。そして相手の短所は率直に指摘する。そうすれば批判は助言として受け入れられます。

2010年、中国のGDP（国内総生産）は日本を抜いて世界第2位となり、中国は日本の最大の貿易相手国になりました。中国語が話せる人材に対する社会の需要は確実に増大しています。日中学院の中国語教育及び留学生に対する日本語教育の役割はますます重要になっていくものと思います。日中学院が素晴らしい人材育成の学び舎になるよう努力することを誓って、自己紹介を終わります。【完】

本科生の山根春香同学が、昨年度に行われたJALスピーチコンテストの準優勝の副賞で訪れた台湾の感想文を寄稿して頂きました。

本科研究科 山根春香

私はこのたび、JAL中国語スピーチコンテストおよび台湾研修に参加させていただきました。同じ中国語を学ぶ大学生との交流や現地学習を通して、たくさんの収穫がありました。

スピーチコンテストは「私と中国語」または「青少年の交流について」というテーマに沿って、4分以内のスピーチが求められました。大会に参加したのは20名弱、大半が大学生で、専門学校からの参加は日中学院だけだったようです。参加者はときにジェスチャーを交え、自分なりの考えや経験を自由にスピーチしていました。この大会の上位2名に台湾研修が副賞として贈与されます。今回私は準優勝という賞をいただき、台湾に招待していただきました。

台湾研修

研修は3月8日～15日の一週間、外交部（日本の外務省にあたる）や大学、名所旧跡などを見学し現地学習を行いました。団員は10数名、スピーチコンテストでの入賞者2名×3会場、残りは推薦団体からの推薦を受けた学生です。団員との交流を通し、同じ中国語を学ぶ仲間として多くの刺激をもらいました。特にルームメイトとはお互いの留学経験や中国語学習法などについて会話が盛り上がり、夜更かしすることもしばしばでした。研修はフォーマルな場面が多く最初は緊張していましたが、大学訪問では台湾学生とすぐに打ち解けることができ、楽しい交流ができました。大学訪問のメインイベントは台湾人学生と日本人学生との討論会です。形式上はディベートなのですが、学生同士が集まれば国籍を越えてワイワイとおしゃべりになってしまうのが面白く、なんだか嬉しくもありました。訪問先の学生、先生方はみな日本語ができるので、中国語力に自信が無くても大丈夫でした。研修では台湾の歴史、文化、日台関係の変遷など様々な分野で理解を深めることがで



き、毎日新鮮な発見がありました。私は特に海外の日本語教育に興味があったので、大学訪問で日文系を見学することができたのが大きな収穫でした。毎日かなり濃いスケジュールのため、自由時間は夜に少し宿舍の周りをぶらぶらできる程度でしたが、1泊2日のホームステイ期間を活用し、いろいろなところを見て回ることができました。特に印象に残ったのは最終日、圓山大飯店（高級ホテル）に忍び込み、記念写真を撮った夜のことです。「自分でお金を出しては泊まれないような立派なホテルだけど、見るだけ見てみよう」と、仲良くなった友達3人で小高い丘を登り、道に迷ったり、くだらないことで笑ったりしながらやっとのことで圓山大飯店にたどり着きました。外観だけ撮るつもりでしたが、せっかくだから！と宿泊客を装い写真を撮ってきました。豪華なライトアップのホテルにばかり気を取られていて最初は気づきませんでしたが、夜10時を回ってホテルの電気が消えると足元には見事な夜景が広がっていました。台北101を望む壮大な夜景と、偶然巡り合った友達とそこに立っている事実によけに感動してしまい、日本人も台湾人も急に静かになって景色を見つめていたのを思い出します。私を含め台湾に来るのが初めての学生が半分ほどいましたが、台湾人学生および受け入れ先のスタッフの皆様の親切なサポートのおかげで不自由なく、大き

な事故もなく研修を終えることができました。一週間という短い時間でしたが、空港での見送りの時は日本人も台湾人も涙して別れを惜しんでいました。研修期間に出会った台湾人学生とは今でも連絡が続いています。

訪日研修に向けて

台湾研修に参加した学生は、今度は台湾人の訪日団をおもてなしすることになっています。7月の訪日研修に向けて、歓迎会の段取りやホームステイ先の確保など、今から団員と密に連絡を取りあい準備を進めています。訪日団はこの台湾研修団と同様毎年新しく結成されるので、今回出会った台湾学生全員と再会できるわけではありません

が、訪日団のみなさんに日本を存分に楽しんでもらい、次回につなげることで少しでも恩返しが出来ればと思います。また、新たな出会いが今から待ち遠しいです。スピーチコンテ



トと台湾研修に参加して、貴重な体験や大切な友達を得ることができました。

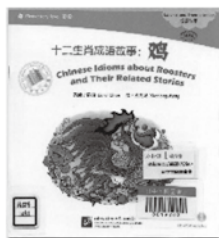
図書室 だより

連休も終わりいよいよ本格的な学習が始まります。今月は下記の四冊をご紹介します。

●『十二生肖成语故事:鸡』

北京语言大学出版社
CD-ROM付 2014年

初級者を対象にした絵本のような読み物です。CD-ROMをパソコンにセットして再生すれば、ピンインを読み上げるので発音練習が可能。読みに慣れたら画面のピンインを消すこともできます。未知の単語は、停止状態にすれば、調べられます。15頁600字ですから、初級者でも苦になりません。十二支以外にレベルに応じて歴史・神話・節句に関する物語があるので、貴方に合った作品に出会えると思います。



●『決定版！中国語学習ガイドブック』

コスモピア 2013年

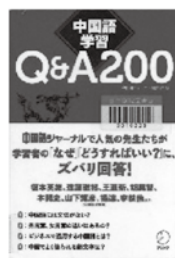
入門から中級レベルの学習者必読と銘打っており、これから始める人へのガイダンス的な書。HSK 1級～6級までの単語5000リストを取録しています。



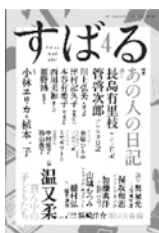
●『中国語学習Q&A200』

アルク 2013年

質問・回答に対する難易度が★の数で示され、入門クラスから上級者まで学習中にぶつかる悩みに答えてくれます。



— 母校 日中学院が舞台に —



台湾で生まれ、日本語作家としてご活躍中の温又柔さんが、日中学院を舞台とした小説を書いてくださいました。題名は『真ん中の子どもたち』です。そこには私達へのメッセージが・・・

『すばる』4月号掲載 集英社

◀寄贈▶

下記の方より、図書室に寄贈がありました。御礼申し上げます。

●小林純子様より

『三国演義』・『中庸』（共に中文書）等

●飯塚容様（共訳者）より『灯火 2016』

●樋口裕子様（執筆者）より

『レベルアップ中国語3月号』

●新井一二三様（著者）より『我和中文談戀愛』

●あずさ監査法人Global Japanese Practice 中国事業室様（編者）より

『中日英・日中英 投資・会計・税務 用語辞典』

～ 中国現代文学の魅力—私の翻訳経験から～

2006年11月、日中学院創立55周年記念講演会で「新時期の中国文学」というお話をしていただき、当時停刊直後だった『季刊中国現代小説』（1987～2005年）掲載作品を中心に文革後の中国文学を振り返りました。

今回は、その後の10年間に飯塚先生が訳されてきた文学作品を取り上げ、翻訳の裏話、難しさや楽しさについて、雑談ふうに語っていただきます。

■日 時：6月10日（土）13：00～15：00
（12：40受付開始）

■講 師：飯塚容 先生

■会 場：日中学院内教室

■参加費：500円（当日お支払下さい）

■定 員：50名

参加ご希望の方は日中学院事務局までお申込み下さい。お待ちしております。

～講師紹介～ 飯塚容（いづか ゆとり）

1954年生まれ。東京都立大学大学院修了。中央大学文学部教授。専門は中国近現代文学および演劇。著書に、『中国の「新劇」と日本』（中央大学出版部）ほか、訳書に、余華『活きる』（角川書店）、『ほんとうの中国の話をしよう』（河出書房新社）、高行健『ある男の聖書』『母』（集英社）、鉄凝『大浴女』（中央公論新社）、蘇童『碧奴』（角川書店）、閻連科『父を想う』（河出書房新社）、畢飛宇『ブラインド・マッサージ』（白水社）等多数あり。2011年、中華図書特殊貢献賞を受賞。



～中国語五七五 三行日記～

我们很吃惊 日本接力获银牌 亚洲新纪录

日中学院別科生 齊藤多慧

オリンピック・グラウンドでの日本チームの大躍進には感動しました。その興奮が今だにありありと目に浮かびます。アジア人の一員である私にとっても大変嬉しい出来事でした。「有志者事竟成」…大きな志を持ち、一緒にそれに向かい、地道に努力していく姿は多くの人に勇気と感動を与えました。終点がなければ起点がないとも言えますし、逆に起点がなければ終点もないとも言えます。大きな目標に向かうという心持ちで、まず一步を踏み出すことを考えさせてくれる一句、2020年の盛会が楽しみです。



丈夫做晚饭 下班很晚太累了 感谢菜好吃

日中学院別科生 小泉知美



日本では、家事をする男性はまだ一般的ではないようですが、若い夫婦の場合、夫も家事をするという人が増えているそうです。男女平等社会が叫ばれる昨今、男性も家事参加にできるような社会環境を整える必要があるでしょう。暖かい食事が待っている家に帰れば疲れも半減、家族と食卓を囲めば食事も格別に美味しくなりますが、そう感じるのは男性だけではないでしょう。心温まる一句でした。（国際文化フォーラム微博／『聴く中国語』より）

5 月の日中学院

星期日	星期一	星期二	星期三	星期四	星期五	星期六
	1 ●休校日 (~5/5)	2	3	4	5	6 ●本科・別科授業再開
7	8	9	10	11	12 ●本科1年・研究科・日本語科健康診断	13
14 ●「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座	15	16 ●本科・日本語科合同合宿	17 ●本科・日本語科合同合宿	18	19	20
21	22	23	24 ●本科 短期研修説明会	25	26	27
28	29	30	31			
●6月の日中学院 ・5日…日本語科ホームステイ募集開始 ・7日…別科昼間昼食会 (~9日) ・10日…特別講演会 飯塚容先生13:00~		・15日…本科2年定期試験 (~21日) ・16日…別科公開講座 入門 (18:45~) ・18日…日曜1日集中講座 ・24日…本科短期研修出発 (~7/30)		・24日…別科265期授業最終日 別科公開講座入門・基礎 (13:00~) ・26日…別科学期間休み (~30日)		

□特別講座のご案内

○発音について不安がある。再度復習したい方などを対象に下記の講座を開講します。

- ☆音節表で学ぶ発音講座 小澤光恵
金曜日13:30~15:30 全4回 (5/12~)
 - ☆音読から学ぶ発音講座 小金井京子
火曜日18:45~20:45 全4回 (5/9~)
- 受講料: 14,400円 (各講座につき)
※在校生割引あり

○前回の講座にご参加頂いた方も、初めての方にもご参加頂ける講座です。中国結びを中国の伝統工芸として入門から段階的にじっくり学んで頂ける講座です。

- ☆中国結び講座 みなみりょうこ
土曜日16:00~17:30 全8回 (5/13~)
- 受講料: 24,000円 教材費別途

○昼間講座で、多くの方にご参加頂いている講座が夜間の特別講座として開講します。「中国語がスムーズに出てくるようになりたい」等、通訳のメソッドを応用して練習を行います。

- ☆口と耳のエクササイズ 中村予至子
金曜日18:45~20:45 全5回 (5/12~)
- 受講料: 18,500円

□日曜 1日集中講座 6月18日(日)

中国語を初めて学習される方を対象としたコースから、文法の復習コース等、様々なクラスを開講します。日頃はお時間が無い方でも、1日ですっきり勉強してみませんか。

講座の時間や授業料など、HPもしくはチラシをご覧ください。

□京劇講演のお知らせ

日中国交正常化45周年記念

京劇「楊門女将2017」天津京劇院日本公演

《楊門女将》は京劇の名優・梅蘭芳が最後に演じた名高い演目です。武門の誉れ高き一族・楊家の女性達が、祝いの宴から一転、悲しみをこらえつつも戦いの装束を身にまとい、深い家族愛と国を守る強い心を失わず、勇壮に戦場へ出陣します。
日時: 東京公演2017年6月21日(水)~29日(木)
場所: 東京芸術劇場
問合せ: 京劇公演事務局 03-5281-8066

□編集後記

今月から、学院報のレイアウトを変更しました。日本語科の卒業生の唐涛様に新たにレイアウトして頂きました。ありがとうございます。新しい学院報の感想などお聞かせください。(D)